

2018年度 入学試験問題

作文

(グローバル入試)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入しなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
5. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

東京都市大学附属中学校



◎次の文章は埼玉県主催平成二十六年「青少年の主張大会」小学生の部優秀作品です。よく読んで、あなたが感じたことを自由に書きなさい。字数は自由です。

「一科学者としてすべき事を粛々とやっていきたい」

これは、ぼくが四年生の時、iPS細胞の研究でノーベル賞を受賞した山中教授という人の言葉です。そして、今はぼくの夢を支えてくれている言葉でもあります。

ぼくは教科の中で理科が一番好きです。特に器具を使って実験をする授業が楽しく、科学に興味を持つようになりました。三年生の夏休みに、「日なたでの温度くらべ」というテーマで自由研究をしました。条件の違いで水の温度がどう変化するかという内容の実験です。この自由研究が科学展に選ばれました。再実験をしてパネルを作るために、放課後や休みの日も学校へ行き作業をしました。大変だったけれども、友達が何人も手伝ってくれとても心強かったのを覚えています。その結果賞をもらい、家族は自分の事のように喜んでくれ、クラスメートからも「賞が取れるなんてがんばったからだね」とほめられ、とてもうれしかったです。

このうれしさが忘れられず、少しずつ将来は科学者になりたいと思うようになりました。さらに四年生の道徳で、将来の夢について発表をした時、先生に「ノーベル賞」という世界的に有名な賞がある事を教わりました。それからぼくの将来の夢は「ノーベル賞をとれる科学者」になりました。

そのような時、ニュースで山中さんがノーベル賞を受賞した事を知りました。あこがれのノーベル賞を取った山中さんを見て、ぼくは自分が科学賞を取った時の喜びを思い出しました。

ところが、授賞式後、山中さんは「ノーベル賞は大切にしまつてもう見ません」と言ったあと、あの「すべき事を粛々とやっていきたい」という言葉を言ったのです。それを聞いて、ぼくは最初とてもおどろきました。なぜなら、うれしくないのかな、自まんじやないのかなと疑問に思ったからです。けれども次に、その言葉の意味をよく考えてみました。その時にふと思ったのは、きっと山中さんは困っている人を助けたいという思いから研究をしてきたのではないか、という事でした。

「粛々」という言葉を辞書で調べてみると、「静かにひっそりとした」という意味がありました。iPS細胞というのは、まだ治療法が確立していない病気の、新しい治療法となるかもしれないすごい発見だそうです。でも見つかったばかりで、これから研究すべき事がたくさんあるそうです。

ノーベル賞をもらった事はすばらしいけれども、その事ばかりに気をとられているとその先の研究に集中できないかもしれません。また、賞が取れたらいいなと思うあまり失敗してしまう可能性もあります。きっと山中さんもそう考えたからこそ、「粛々と」研究に集中したいと言ったのではないかと思ひ、ぼくは感動を覚えました。

ぼくも、科学賞を取った事もうれしかったけれど、それ以上に実験の結果が予想通りに出たり、

全然違っていた事が楽しかったです。そして夢中になり取り組んだ事に対して、色々な人が興味を持ってくれた事が一番うれしかったです。

この時からぼくの夢は、ただ「ノーベル賞を取る」ことではなく「真に人の役に立つ発明や命を助ける発見のできる科学者」というものになりました。

そのためにもぼくは、今やれる事を精一杯やろうと思っています。大好きな理科や算数だけでなく、苦手な国語も一生懸命勉強して、夢を実現できる力をつける事が今の目標です。

つらい事があつたり、めんどろだと思つた時にも「一科学者としてすべき事を肅々とやっていきたい」という山中さんの言葉を思い出して、ぼくも夢に向かって真つ直ぐに進んでいきます。

（「ぼくの夢を支える言葉」三郷市立早稲田小学校6年 滝澤陽人）

(問題は前のページで終わり)